徳川家康と会津

若松城・神指城・柳津・会津美里との関係

「徳川家康」とは

天文十一年(一五四二)十二月二十六日岡崎城で松平広忠嫡男(母水野大子)誕生。元和二年(一六一六)七四歳で没。松平竹千代(次郎三郎、蔵人佐)、元信、元康、家康と改名。

天文十六年(一六四七)六歳で今川義元の人質となる途中、織田信秀が岡崎城を攻め人質となる。後に駿府へ移る。天文二十四年(一五五五)元服、元信と改名、瀬名(築山殿)を娶る。永禄三年(一五六〇)の桶狭間の戦いで義元が敗れ、元康に改名し岡崎城に入る。三河で一揆が発生、永禄九年(一五六六)平定「徳川」と改名。

永禄十年(一五六七)岡崎は子の信康に譲り浜松城に移る。永禄十二年(一五六九)今川氏の掛川城を落とし、元亀元年(一五七〇)本拠地を浜松城に移した。元亀三年(一五七二)武田信玄が浜松城北に進攻、二股城は落城、三方ヶ原戦いで何とか防戦した。信玄が亡くなり子の勝頼が、明智城と高天神城を攻略した。天正三年(一五七五)長篠の戦いで勝頼が敗北、諏訪原城を取り戻した。天正元年(一五七三)に勝頼が落として高天神城主の大河内政局は、石牢に八年間閉じ込められたが天正九年(一五八一)解放された。翌年甲斐国新府城を攻め武田氏は滅亡した。信長から駿府を与えら移り、駿河、遠江、三河、甲斐、信濃の五国を領した。

天正十年(一五八二)本能寺の変で信長が死去、豊臣秀吉が台頭、天正十二年(一五八四)の小牧長久手の戦いで秀吉と激突、天正十四年に大坂城で秀吉の配下となる。天正十八年(一五九〇)小田原の北条氏が敗れ、家康は江戸に移った。天正十九年九戸の乱を氏郷とともに鎮圧。文禄の役では肥前に留まっている。蒲生氏郷は鶴ケ城を改修する際、家康に相談『徳川実紀』に「広島城のようにしたかったが、今ある城を早く改修し堅固な城にしろ」と言われている。

慶長三年(一五九八)、秀吉が死去すると、前田利家、上杉景勝ら五大老と石田三成らと対立、上杉討伐令を出す。七月二十四日、小山城まで進軍したが翌日、三成の挙兵で西へ反転、九月十五日の関ケ原の戦いで勝利する。景勝、直江兼続は、神指城築城を中止し、防塁を築き各地の城を大改修、家康も下野の城を大改修している。

慶長十年(一六〇五)秀忠に将軍を譲り、十二年駿府に移って大御所となる。慶長十九年(一六一四)の大坂冬の陣・翌年の夏の陣で豊臣氏は滅んだ。元和二年(一六一六)一月二十一日天ぷらを食べて倒れ、四月十七日駿府城で胃癌により死去。久能山に埋葬され翌年日光に分霊された。

「赤べこ」の誕生と家康の娘

本堂の圓蔵寺虚空蔵堂は、慶長十六年(一六一一)の会津大地震で倒壊。そこで本堂を建て替えることになり『揚津秘録』に「元和三年(一六一七)蒲生秀行室で家康の三女振姫(側室於愛・竜雲院の娘)が殿堂建立、其時の別当住持有栄和尚也。普請奉行は外池伊織介、村田喜平衛」

『異本塔寺長帳』に「法界行人柳津邑(むら)虚空堂再興ス」と再建した。秀行の父は氏郷で、母は信長の娘冬姫。『会津鑑』に

「夏秀行公夫人　大殿復興　大殿本　岩下ニ在　楼而ニ　洪水難有故ニ　岩上ニ遷ス　岩ニ刻シ為階高百余級」「元和三年、(柳津)塔堂並び塔寺邑観音堂建ツ本願法界上人」「元和二年コトハジメ同三年円成」

と、蒲生秀行夫人振姫が堂の再建に関わっている。

伝承に堂を再建する時、只見川から材木を運び上げるのに苦労していると、どこからともなく毛が赤い「赤べこ」(赤牛・朝鮮べこという)が現れ、材木運搬を最後まで手伝い去って行き、そのため堂は完成した。黒い斑点は、正徳三年(一七一三)に流行した疱瘡(天然痘ウィルス)除けのしるし。

「家康と天海(慈眼大師)」

家康から家光に仕え、陰陽道をして江戸城下づくりに関わる。『東叡山開山慈眼大師縁起』に「陸奥国会津郡高田の郷にて給ひ。葦名修理大夫平盛高の一族」とある。生まれは高田で『会津正統記』永禄二年(一五五九)船木少輔景光の嫡男兵太郎とある。葦名盛氏の黒川城如法寺別当時代は「隋風」という。『孝亮宿祢日次記』の寛永九年(一六三二)に日光東照宮薬師堂法華経万部供養の時、九七歳であった説から天文五年(一五三六年)ともされ一〇八歳で没とする。天正一六年(一五八八)無量寿寺北院を喜多院(埼玉県川越市)と改め「天海」と名乗る。寛永元年(一六二四)江戸城の鬼門に寛永寺を創建。

三十三観音番外　浮身観音堂

十二歳の時、浮身の水田水堀から観音像を掘出し祀る。

天台宗　道樹山　龍興寺

嘉祥元年(八四八)開山。天海十一歳の時、得度、名を随風と改め三年間修行し、黒川城に移る。国宝「一字蓮台法華経」と「天海大僧正木造坐像」がある。像は正徳四年(一七一四)寛永寺で開眼し、会津領内を勧進して納められた。

天海大僧正両親の墓

大正四年に境内から発見。一対の五輪塔。下の地輪に「景光」の名が彫られている。母は十三代葦名盛高(一五一七年没)末裔の娘。

図・写真・文　©石田明夫2022　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。